

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



深安分教会

昭和2年2月2日 設立

平成15年10月5日 落成奉告祭

陽気ぐらしを目指して、たすけの輪を広げよう

今一手一つに、一步一步！

- *一教会、初席者一名以上
- *おさづけを身近に
- *百万件のにをいがけ

一人ひとりの信仰生活の充実 ~プラスαを目指して~

- *教会に参拝し、おちぼの理を戴こう
- *心を込めておつとめをしよう

創立百三十周年記念祭並六代会長就任奉告祭

立教184年(2021年)10月24日 執行

立教184年

3・4
月号

おつとめまなび総会開催
4・1 大教会
少年会

少年会笠岡団(武内正美団長は、4月1日、大教会で「おつとめまなび総会」を開催しました。

参加者は、少年会員115人、育成会員103人、総数218人(受付数でした)。

今年は、コロナ禍の中での開催となりましたが、200人を超える参加者の御守護を頂きました。おつとめまなびは、よろづよ八首を総立ちでつとめさせて頂き、式典、お楽しみ行事と2時間程の総会でしたが、賑やかに勤めさせて頂きました。

昼食は、ハンバーガーセット、カレー、スイーツとボリューム満点のお弁当で、大人も子供も大満足のメニューとなりました。

年に一度のこの総会は、個々の教会で子供におつとめを教え共々に練習し、大教会でつとめさせて頂く大変意義深い行事であります。毎年開催させて頂くことに、大教会長様も大変お喜びになっておられます。将来の個々の教会において、重要なよふぼく育成の場となっているこの総会、皆様と共にさらに内容のあるものになる様、ご助言を頂いてつとめてまいりたいと思いますので、今後とも宜しくお願い致します。

(少年会委員 中村 剛史)



コロナ禍の中、さまざまな場面で、感染拡大防止に配慮しての開催となった



修養科を終えて

芳井分教会 佐藤 孝 祐

この3カ月間、修養科で学ばせてもらって、身をもって感じさせてもらったのが、「人を助けて我が身助かる」である。修養科にはお年寄りの方が多く、身上を持つている方がたくさんいたので、たくさんおさづけを取次がせてもらい、3月からは、1日6回おつとめをする心定めをして、親神様に身上のたすかりをお願いしていた。その時に思ったのが、人のたすかりを願うことって、こんなにも体がポカポカするものなんだな、ということだ。おさづけ、おつとめをしている時に、その人が助かって笑顔になっているところを想像すると、心から助かってほしいなと思えるし、その人の良いところをたくさん思い出して、とても暖かい気持ちになれる。何よりも、おさづけ、おつとめを通して自分が救われているなど気づかせてもらえた。陽気ぐらし

というのは連鎖反応すると思う。暖かい言葉をかけたら、自分も他の人に何かしたくなる。そうやって皆が誰かに優しくなれたらものすごく良い生活をおくれると思う。僕は4月9日からケニアにボランティアをしにいくが、自分が陽気ぐらしの種をたくさん蒔いて、たくさん笑顔の花を咲かせて、またそれが種になるような陽気ぐらしの循環を目標に、これから頑張っていきたい。

修養科で学んだこと

富士分教会 藤井 俊 喜

修養科を終えて感じたことは、参加させて頂いてよかったなということです。入る前に特に不安があったというわけではないですが、ただ漠然と天理教の教理を学ぶのだろうという思いでいました。3ヶ月通して多くの方と出会い、自分の考え方を良い方へ向かえる時間であったと感じます。

まず、一日の始まりから大切にすること、起床時の心の持ち方、一日の心の在り方が大きく異なることに

気づかせて頂くことができました。また、クラスの人は本当に仲が良く、素晴らしい方々ばかりで多くのアドバイスと励ましの言葉を頂きました。先生方にも、色々気づかされるお話しをして頂き、こうして自分のことを思い、良い方向へと導いて下さる人達が自分の周りにはたくさんいたんだなと気づきました。一つ一つの起こってくる事を恩に感じて、それを返せる人間になりたいと思います。

教養掛の先生方、詰所の方々には本当にお世話になりました。帰参された信者の方々も気にかけて下さり、自分もまだまだこれからだなと感じました。

修養科中、学んだことを胸に納めて、これから歩んでいこうと思います。

修養科3カ月を終えて

高屋分教会 武内 ゆかり

この修養科3ヶ月で、たくさんのこととを学ばせて頂きました。おぢばで生活をしていて、毎日かんろだいに足を運んでおつとめができることや、教祖のところに行けることがこんなにあり

がたいことなんだと改めて感じました。

また修養科中、本部の先生方や担任の先生、教養の先生方、同期の修養科生等からたくさんお話を聞かせて頂く機会がありました。今の自分にぴったりのお話で、心にすっと入ってきました。これからも、お話で聞かせて頂いた心の持ち方や通り方を忘れず実行できるようにしたいと思います。

たくさんの方に支えて頂いて、修養科3カ月を終えることができ、これからも感謝を忘れずに低い心で親神様、教祖、周りの方々に喜んで頂けるような通り方をさせて頂こうと思います。これから教会へ帰って、自分のできることを精一杯させて頂こうと思いません。





ひまわりチャンネル



↑ 動画にアクセス

【支部長様ご挨拶】

みなさんこんにちは。新年明けましておめでとうございます。笠岡支部婦人会支部長・上原きよ代です。今日はリモートでのひまわり会の集いで、少しお時間を頂きましたので一言ご挨拶させていただきます。

今改めて振り返りますと、ひまわり会は、誕生当初、「若いお母さんたちの集いの場所」と表現していたと思います。1997年ぐらいのことです。今から24年も前のことです。結婚して10年、おちばでの生活を終え、事情教会の委員部長をつとめ、またすぐ大教会長の妻という立場を与えられ、支部長の任命をいただいて1年ぐらい経っていたでしょうか。8番目の娘を産んで2年ほど経っていたと思います。教会生活などまったく知らない私が、いろんなことに少し馴染んだ頃だったと思います。私の周りには若いお母さんたちは少なく、バタバタ過ごしていた気がしますが、多系統や地方・他家から嫁いできた若い人が集える機会・場所もまだ大教会には作れなかったので、「大教会にそんな場所が作れたらな」、そんな考えだった気がします。当時にも、少年会・女子青年と、育ててくださる場はいくらもあったのですが、「若いお嫁さんたちの育つ場所・集まれる場所ができたらいいな」とそんな考えでした。そのうち、婦人会本部創立100周年の活動の中から、「若いお母さんの育て」という、母親講座とは別に、女子青年を終えた女性の信仰的にも育つ場を作るという動きが加わって、内容的にも少々ややこしくなっていました。それまででも、「若いお母さん」という言葉は、子育て中のお母さんが対象という空気になり、未婚の女性・子供を持たない若い女性が入りにくい空気になっていたりしていました。笠岡支部という婦人会活動に組み込もうとすると、最初の思いや真意が見出しにくくなって、20数年経って、今でもまだまだ落ち着かない形態になっているという感も拭えません。ですが、元は「若い人が、お互いに交流を持って集える場所、笠岡の中の仲間づくりの一つになれたらいいな」という単純なものです。そこらへんを上手に必要なことを組み込んで良い活動の場にできれば、信仰も信仰心も培える場所であつたらいいな、とそう思っています。改めて、女子青年終えた年頃の方から40歳半ばぐらいまでの若い女性たち、委員部長後継者・若い委員部長さんの皆様の活動の場にしていただけたらなと思っています。

さて、皆さんもそうでしょうが、今、周りは、コロナ禍の渦の中で、いろんな考えや思いが溢れていると思います。その中こうして教祖にお育ていただく場にお育ていただいている私たち、今どうすればいいのか。結論は出ています。それは何ににもブレない一人ひとりの信仰信念を培うことです。今のうちに、多大な情報に溢れる中で、自分を見失うことなく、教祖の教えに心を収められるような心づくりができることが大切な思います。私は、教祖の教えは一人ひとりの心育ての教えだと思っています。丸い心づくり、そのために私たちは教会に繋がっているのです。周りもしっかり上手に繋がりが合っていること、自分の殻にこもらずに誰かのことを思いながら暮らせるように育つこと、誰にでも必要な時に必要な手を差し伸べられるように自分を育ててほしいと思います。その原動力は親神様の大きな親心かな、と私は思います。皆さんには、少しでも親心が感じられる心に育ててほしいのです。

年の初め、真柱様のお話に、「コロナにせよ、台風にせよ、やはり、そこには、親神様の力の大きさというものを見せつけられたように思えます。その中、私たちのつとめは、その親神様のお力を頂かないことには進めていくことができないので、お互い、親神様に働いていただけるように、しっかりと、素直に、教えを心に治めていかなければならないと思ったのです。」とございました。

私たちは親神様の大きな親心に守られて生きさせていただいています。親神様のお働きがなければ私たちは何も出来ません。この親神様のお働きをいただく元は、素直に教えを納める心、姿勢です。そこをしっかりと受け止めて、笠岡にとっては大きな節目の年となるこの一年を、一緒に頑張らせていただけるとありがたいと思います。どうぞ、よい「ひまわり会」の活動を、これからも助け合って続けていっていただきたいと思います。ありがとうございました。

※スマホの場合、「支部長様ご挨拶」の右側の「v」をタップ、パソコンの場合は、「リモート集い 動画メニュー」・「はじめの言葉」の下の「もっと見る」をクリックすると、【はじめの言葉】・【活動紹介】・【タイのさばき方!】・【アジのさばき方!】などの他の動画を見ることができます。

立教百八十四年 二月月次祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをどり	おつとめ	地 方	役割		講話	祭主		扨者		
												区分	区分		大教会長様	岡崎真一	虫明立生	岡崎真一	
上原順子	佐藤香苗	虫明好美	岡崎真一	佐藤道孝	三島 涉	中村 剛	上原志郎	上原 浩	田中ますみ	上原愛美	大教会奥様	上原明勇	上原繁道	吉岡 壽	坐り勤	大教会長様	岡崎真一	虫明立生	
中村初美	三島照美	岡崎豊子	浅野明教	内海史郎	高木昭祥	中島誠治	上原繁次	岡田 誠	吉岡八恵	門脇加津	内海安子	森本忠善	今川昌彦	門脇元教	前 半	大教会長様	指図方	賛者	
田中つかさ	山野なつ	岡崎和美	上原繁次	三島 涉	佐藤真孝	門脇元教	渡邊隆夫	吉岡誠一郎	横山小智榮	高木孝子	武内正美	虫明立生	中村道徳	岡崎真一	後 半		上原明勇	三代温生	内海史郎

立教百八十四年 三月月次祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをどり	おつとめ	地 方	役割		講話	祭主		扨者		
												区分	区分		大教会長様 <th>今川昌彦 <th>吉岡誠一郎 <th>今川昌彦 </th></th></th>	今川昌彦 <th>吉岡誠一郎 <th>今川昌彦 </th></th>	吉岡誠一郎 <th>今川昌彦 </th>	今川昌彦	
佐藤香苗	今川佐智子	虫明好美	岡崎真一	杉原博之	田中隆之	吉岡 壽	佐藤道孝	中島誠治	田中ますみ	上原愛美	大教会奥様	上原明勇	上原繁道	上原志郎	坐り勤	大教会長様	今川昌彦	吉岡誠一郎	
笹尾一美	横山小智榮	森本富美子	上原 浩	渡邊隆夫	虫明立生	岡田 誠	内海史郎	浅野明教	田中つかさ	谷内美知子	岡崎豊子	山野弘実	谷内伸自	中村道徳	前 半	大教会長様	指図方	賛者	
岡崎和美	中村初美	三島照美	赤木素志	三代温生	中島誠治	上原志郎	山田敏教	上原繁次	吉岡八恵	内海安子	武内正美	吉岡誠一郎	岡崎真一	今川昌彦	後 半		中村 剛	岡田 誠	浅野明教

立教百八十四年 春季霊祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをどり	おつとめ	地 方	役割		講話	祭主		扨者		
												区分	区分		大教会長様 <th>岡崎真一 <th>横山逸郎 <th>岡崎真一 </th></th></th>	岡崎真一 <th>横山逸郎 <th>岡崎真一 </th></th>	横山逸郎 <th>岡崎真一 </th>	岡崎真一	
谷内美知子	高木孝子	岡崎豊子	田中隆之	門脇元教	岡崎真一	中村 剛	中村道徳	吉岡誠一郎	武内正美	上原愛美	大教会奥様	上原明勇	上原繁道	佐藤道孝	前 半	大教会長様	岡崎真一	横山逸郎	
山野なつ	吉岡八恵	内海安子	赤木素志	佐藤真孝	今川昌彦	山野弘実	高木昭祥	杉原善朗	田中つかさ	門脇加津	上原順子	虫明立生	上原 浩	中島誠治	後 半		上原明勇	上原繁次	浅野明教

二月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には一列子供の陽気ぐらしを楽しみに心一つの理に身体をお貸し下され自由のご守護と天然自然のお働きをして下さっております 加えて身上事情を通して陽気ぐらしが出来るようにとお導き下さっております事は誠に有り難い極みでございます しかしながらその理が分からず苦しみに喘いでいる人が多く居ます事は誠に申し訳なく「世界一列たすけたい」とお聞かせ頂く私共は一人でも多くの人にたすけに浴して貰いたいとおつとめを勤めにいがけおたすけを通してその思召を伝えさせて頂いております ただ今はコロナ禍の中にあり人との接触が難しい時期ではあります 幸いに電話や手紙 又ネットが充分に活用できる環境がありますのでそれらも駆使して出来る精一杯のたすけ一条に励ませて頂いております

その中にも今日の吉日はたすけの元立てたる月毎のおつとめを勤める日柄でございますので 只今よりおつとめ奉仕人一同心を揃えて 明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりを勤めて二月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には集い難い中にも今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げますと共に世界中のたすけやコロナ禍の一日も早い終息を願う皆の真実の状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さてこの笠岡に於いても現在教会統合を進めさせて頂いております せっかく末代の理としてそれぞれの教会にお許し戴いた名称の理を統合し 御下附戴いた御目標様をおちばにお返しする事は 名称を願ひ出た当時の方々並びに代々受け継いできた方々に大変申し訳なく断腸の思いでございます しかし統合は単なる事情整理では無く力を結集しより活発なお助け活動を推し進めていく為のものである事を肝に銘じ 後々先人達に喜び安心して貰えるよう新たな名称のお許し目指してより一層おたすけに励ませて頂く所存でございます 又笠岡全体として初代の思いに立ち返りたすけの輪が広がって行くよう たすけを実感して貰えるおたすけに邁進させて頂く所存でございます

何卒親神様には 親の思い先人の思いに少しでも応えたいとコロナ禍の中でも勇んでたすけ一条に励む皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上にも尚も自由のご守護を賜ると共に 新たにたすけ一条に邁進する人が増強して 僅かずつでも陽気ぐらし実現に近づけるようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

大教会だより

◎本部食堂ひのきしん

自 立教184年2月16日
至 立教184年2月28日
新山邑 三 島 美保子

◎教人資格講習会修了者(後期)

立教184年3月13日終講
芦 常 澤 田 貴美恵

◎第九五五期修養科

自 立教184年1月9日
至 立教184年3月27日

* 教 養 掛

* 教 養 掛(主任、副主任)

一ヶ月目 ⑤ 森 本 忠 善

(大教会役員)

海松ヶ岡分教会長

⑤ 仙 田 公 男

(天場山分教会長)

二ヶ月目 ⑤ 上 原 明 勇

(大教会役員)

⑤ 福 島 大 介

(福満分教会長)

三ヶ月目 ⑤ 横 山 逸 郎

(大教会役員)

三 月 月 次 祭 祭 文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいませ

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様の親心溢れるご守護を頂いて 日々は結構に恙なく生活させて頂いております 特に今はあれほど寒さ厳しかった冬も三寒四温を繰り返しながら日毎に暖かさを増し 春の訪れを感じるようになりました事は誠に有り難い事と喜ばせて頂いております しかしながら非常事態宣言により ようやく下火になってきたコロナウイルスの感染も変異ウイルスの出現が新たな脅威となり 安心して生活出来るのは 当分先の事になりそうです そんな中私共は かしものかりものの喜び感謝の心一杯にご恩報じを胸に 日々は朝に夕に御礼申し上げると共に 「せかいぢうたがいにたすけするならば 月日も心みなひきうける」との真実を一人でも多くの人に伝えるべく 今出来る精一杯のたすけ一条のご用の上に努め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日は三月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 喜び感謝の心も一人に 明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりを勤めさせて頂きます 御前には コロナ禍の中 お互いに感染に気を付けながら寄り集い 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げます コロナ禍の一日も早い終息を願って参拝する皆の真実の状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて年度替わりの今 多くの若者が環境の変化に不安を抱くと共に期待に胸膨らませております そんな今だからこそ絶好の育ての機会ととらえ 新たな人との関わりを大切にしていくなかに 「たすけあい」の心が必要である事を伝えたいと存じます 「二つ一つが天の理」とお教え頂きます 「人たすけたえら我が身たすかる」の真理を實踐していく事がたすけの輪を広げ 人間関係が円滑になり仕事も勉強も上手いききそして陽気ぐらし実現に繋がる事を感じて貰えると思います 又「成つてくるのが天の理」との御教えも併せて伝え 成つてくる全てが親神様のたすけ心の現れである事を胸に充実した新生活を味わって貰いたいと存じます

何卒親神様には 世界一列を助けたいとの親心に凭れたすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいませ して 万たすけの上になお一層のご守護を賜り 親心に触れ御恩報じを念じ共におたすけに励む人が増して お望み下さる陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

*修了者

芳井 佐藤 孝祐
福富士 藤井 俊喜
高屋 武内 ゆかり

東城分教会会長
副 武内 清和
(香地華分教会会長)

訃報

室喜久子姉

錦備分教会前会長

3月28日出直されました。

享年 90才



春季霊祭祭文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます 本席様の神霊 初代真柱様並びに奥様の神霊 二代真柱様の神霊 大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の神霊 初代会長上原さと刀自の神霊 二代會長上原伊助大人光刀自の神霊 三代会長上原繁雄大人くにゑ刀自の神霊 四代会長上原郁雄大人朝子刀自 自せい子刀自の神霊 歴代会長と共にたすけ一条の上に真実を尽くされた役員 部内教会長 教人 よふぼく 信者の神霊 諸々の神霊の前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

祖霊様方には 身上事情を通して親神様のお心に触れ 教祖様のお引き寄せを頂かれて早くからお道のの人となられました 以来我が身我が家の因縁を悟り 因縁納消の為にご恩報じをすべくたすけ一条に邁進されました 今日結構なお道の姿があるのも 祖霊様方のそうした真実をお受け取り頂いたお陰と 日々は朝夕に御礼を申し上げると共に自らの因縁も自覚したすけ一条の上に努め励ませて頂いております

その中にも本日は 春の霊祭を執り行う日柄でございますので 只今ではをどりをとめて神殿の儀を行い引き続き祖霊殿の儀を行わせて頂きます 御前には海川山野の多米津物を供え 祖霊様方の在りし日を偲び御威徳を称え お礼申し上げる皆の真実の姿をご覧下さいまして 祖霊様方には御心お安め下さいますよう お願い申し上げます

さてコロナ禍は一年もしない内に解決すると思っておりましたが 一年余り経ちワクチンが出来 接種が始まった今でも収まる気配はありません むしろ変異種が現れ新たな脅威となっております 私達の使命であるにをいかけおたすけもままならない状況であります 「たすけの輪を広げよう」との思いは忘れる事無く 十月の記念祭・奉告祭目指して出来る精一杯のおたすけに励ませて頂いております その中本部の思いに沿って教会統合を進めさせて頂いております より力を結集してたすけ一条に邁進する為とは言え 真実を伏せ込んで下さった祖霊様には大変申し訳ない事と丹精の足らなかつた点をお詫び申し上げます この上は又新たな名称を御守護頂けるよう 「たすけの輪」を広げて行く所存でございます

何卒祖霊様方には 先達の方々の歩みを見つめつつ時代に流される事無く かつ時代に取り残される事の無いよう真実を重ね たすけ一条に邁進する皆の状をご覧下さいまして より一層笠岡のたすけの道が延び広がりますようお力添えの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます



花粉症の私はこの十数年、春先はマスクが欠かせない物であった。それが今や、新型コロナウイルスのせいで春先だけではなく年中手放せない物となった。私だけではない、日本の殆どの人がそうであろう。感染対策は勿論のこと、マスクをしないとマナー違反という目で見られてしまいます。世界中がそうであろうと思いきや、日本人と外国人ではマスクに対する意識が違うようで、特に欧米ではマスクを嫌う人が多いようだ。某国の某前大統領がそうだったように...

マスクが息苦しいということだけではなく、他人との会話の時、日本人は相手の目元を見るが、欧米では口元を見る傾向があるようで、コミュニケーションが取りにくいと言うのも理由と考えられる。確かに古今東西、怪しい奴くせ者がマスク(仮面)で覆面をするものである! ?

先日 米テキサス州の知事が、マスク着用義務を解除する発表をしたニュースが流れた。ワクチンの接種が進んでいるからだろう。間違えてはいけない。ワクチンは発症や重症化を防ぐもので、感染防止の効果はない(今のところ)。ワクチンを打ってもウイルスは体内へ侵入し、他人を感染させる可能性が大いにあるということだ。感染を防止するために、まだまだ当分マスクは手放せませんぞ! 生き苦しいが共に頑張りましょう。